寛政十一己未年
部而三拾四部
八冊之内
参

へ13
2946
177

富ふ及ぶ貧とは矯詰也生ハ不及ず死ハ剽詰なり。千年ハ揚洌の霍よりのち。腰ハ十万錢を佩とも。神のゆ人情なこのゝ。兎角剽詰ハ尚世俗ゆ流れば。雨巫女ト門口ゆも一体この邪角つを恥ぢ。世界の子を。さぞ見まで。釵の山の金を乞ふ。杜鵑ハ熱いの物抜を。さが。大ふ蓮乃水をてゞきて。金ゆ色のはわてき。水を呑んとゆ。ハ穴を堀て抜井を出し。笑ひは地義。自ゝと笑んせ。この人生ハ時の間ハ自ゝ。水のまゞ。ゆも敬とは。当て。ゆらゆ門ゆ禍薬の。笑ひ草と。ゆ及ぶ。

寛政十一
未孟陽

蘭奢亭香保留識

177
へ13 特
2946
177

「いどのきりかへ
なんでもなく
三つあらはれる月
さうのこと

それよりかのぬき
弁戸すぎりてちらくれ
とどろくじゆあみが
おにさうかそなへも
とへものおれけれべ
おきたんつなぎの山が
らへかうすさとらく
とおさえてひつくら
くへしまろへしあん
まさあへちらくりん
まちの大王さてゆ
ちからぬくうち
をあのきみえて
かりのできこ
きりのきろきたれ
いでかれがすこも
くものさむもと
つかしこれゆるや
ゆめのもあわざあら
ぞぞらへとこれが
いあづまのでてく
ひらくくと
のでかるすそ
さちまちつま
ちごくもめつ
まそらすころろ
らへさへぎ
かるせらい
まてあかり
ぬきのきうく

りくだいことぞ
つうれねく大
そうかろめの
あんやりく
りのものぞらく
アでらとのとき
こえりのぞく
なるかうそどん
てころりし
ころして
まこすつめ
さへくせぞ
かいでか
かりのようかな
かせがらく
あどうけん役
ようんじくこ
あるさ霜あれ
ゆりがあつて
もかくのべ
あるぬく
いかのあん
こゑるのみ
とおようり
りいぜし
あらも
ちくぞ

五百万性漢建立
銭散

元祖
名物
大ぶり餅
極楽ちつ家

車
牛

南無鬼画僧
佛画

時貨
利潤賣
切不仕

ぢごく再

さてやうやくあいどの
ひらぎをつめかへしやう
しめしてらかとうそとへ
あくのかさるてうしろう
七ゝわのくゝかとこ
大ら、てんの
つちゝとの
ひつゝの
えるのゝろ
いのゝろ
ちとせのるべ
まかさけのさかを
つけよろつ
代のゝろの
こうこかまろ
つことつい
ともはよいひ
かなうゝれと
ひつゝこも
つきやゝ
きこうよの
さうさうる
とのゝりちへ
しうこうのは
きるとさこう
うりちあゝうしとゝ
しゆくしる

橋香保留作